

事業所における児童発達支援自己評価結果

公表:令和 3 年 5 月 13 日

事業所名 音楽療法センター コスモス・キッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題 や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で 適切である	100%	0%		
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された 環境になっている。また、障害の特性に応じ、事 業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等 への配慮が適切になされている	100%	0%		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境に なっている。また、子ども達の活動に合わせた 空間となっている	100%	0%		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標 設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	13%		非常勤職員が多く参加出来ない 場合もあるが、情報共有が出来 るよう調整していきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対し て事業所の評価を実施するとともに、保護者等の 意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表 の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行う とともに、その結果による支援の質の評価及び 改善の内容を、事業所の会報やホームページ 等で公開している	100%	0%		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務 改善につなげている	75%	25%	・今はコロナ禍ででき ていないが2021年度 は機会を作りたい。	コロナ禍で実施できていないが、 状況を見ながら機会を作りたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を 確保している	88%	13%	・オンライン研修など 可能な研修を受講し ている。	毎年実施されていた民間の研修 もコロナの為、減っている。オンラ イン研修などの受講を進めたい。
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発 達支援計画を作成している	100%	0%		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化 されたアセスメントツールを使用している	88%	13%		職員に周知を図っていききたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラ インの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発 達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支 援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの 支援に必要な項目が適切に選択され、その上 で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	88%	13%		職員同士コミュニケーションを取 りながら立案している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫してい る	100%	0%	・他のスタッフと意見 交換している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し ている	100%	0%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%	・当日中にできない場合もあるが、ミーティングで定期的に話し合っている。	当日中に振り返りの時間を持ち、次回の支援方法を共有していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	88%	0%	・相談事業所と常に連携している	担当者会議や電話などで連絡を取り合い連携を図っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	50%	13%	・今は医療的ケアが必要な子どもの利用はない。 ・行っていない。	医療ケアが必要な子どもの支援は行っていない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	63%	13%	・今は医療的ケアが必要な子どもの利用はない。	医療ケアが必要な子どもの支援は行っていない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	88%	0%		担当者会議や電話などで連絡を取り合い連携を図っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	75%	0%		担当者会議や電話などで連絡を取り合い連携を図っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	88%	0%		担当者会議や電話などで連絡を取り合い連携を図っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	25%	63%	・コロナの為交流が出来ていない。	以前はクリスマス会を開催していた。現在コロナ禍で機会を作ることが難しいが、状況を見ながら検討していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	25%	50%	・コロナ禍でできていない。	コロナ禍で機会が少ないが、機会を見つけて参加したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		毎回来所時に保護者と共有している
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	50%	38%	・コロナ禍でできていない。	以前は、ママ・パパクラブで機会を作っていたが、現在コロナ禍で集まる機会が作れていない。オンラインでの開催を検討していきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	88%	0%		来所時やモニタリングの際に、保護者から日頃の様子や悩みなどをお聞きし、話し合っている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	38%	・コロナ感染症対策のため今年度はできていない。 ・集まる機会を作りにくい状況なので、情報共有ノートを活用している。	以前は、ママ・パパクラブで機会を作っていたが、現在コロナ禍で集まる機会が作れていない。オンラインでの開催を検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	88%	0%		日頃から、体制整備に努めている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	88%	0%		年に数回、通信を発行し、情報を伝えている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	88%	0%		LINEやメールでのやり取りも増えているので、情報の取り扱いに十分注意していきたい
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	88%	0%		視覚的な支援など、情報伝達の工夫をしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	38%	・コロナ禍でできていない。	コロナ禍が収まったら今後実施したい。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	88%	0%	
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	75%	13%		年に数回、職員全体で訓練を行う機会を作っている。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	75%	0%		面談時に個人記録シートを保護者に記入して頂き、確認している。
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13%	63%	・食事提供はしていない。	食事の提供は今後も行わない。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	88%	0%		ヒヤリハット記録を記入し、ミーティングを行っている。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	0%		大阪府の研修などを積極的に受講している。
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	63%	13%		保護者同伴通所で、同室しない場合でもカメラで可視化している。状況に応じて保護者の了解を得た上で対応しているので支援計画には記載していない

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。